第9章 環境影響評価項目に関する環境の保全のための措置

環境影響評価の検討の過程において講ずることとした環境保全措置は本章に示すとおりである。また、環境保全措置の検討にあたっては、以下に示す考え方を基本とした。

- (1)環境保全措置の検討に当たっては、環境への影響を回避又は低減することを優先するものとし、これらの検討結果を踏まえ、必要な場合に本事業の実施により損なわれる環境要素の持つ環境の保全の観点からの価値を代償するための代償措置を検討する。
- (2)環境保全措置の実施時期、実施期間等は計画の熟度に対応し、関係機関と連携を取りつつ適切に選定する。
- (3)環境保全措置についての複数の案の比較検討、実行可能なより良い技術が取り入れられているか否かの検証等を通じて、講じようとする環境保全措置の妥当性を検証し、適切な措置を講ずることとする。

第1節 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持

9-1 大気環境

9-1-1 二酸化窒素及び浮遊粒子状物質並びに粉じん等

工事の実施時における建設機械の稼働又は資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による 二酸化窒素及び浮遊粒子状物質並びに粉じん等の影響を、事業者により実行可能な範囲内で 回避又は低減するために、表 9-1-1 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-1-1 大気環境(二酸化窒素及び浮遊粒子状物質並びに粉じん等)に関する 環境保全措置の検討結果

显征	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
彩	音安凶	影音	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				排出ガス対 策型建設機 械の採用	排出ガス対策型 建設機械の採用 により、二酸化 窒素及び浮遊粒 子状物質の発生 を低減できる。	低減	а	なし	なし
工事	建設機	二酸化窒素及び	発生量の低減	工事規模に 合わせた建 設機械の設 定	適切な機械の設定によりとでは、上の建設機械の要械を配置及び移動で、工酸化ることを素状物で、工酸性子氏域で発生を低減で発生を低減できる。	低減	а	なし	なし
事の実施	建政機械の稼働	二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生	発生原単位の低減	建設機械の使用時における配慮	工事のて、防シガーのでは、高いのでは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の	低減	а	なし	なし
				建設機械の 点検及び整 備による性 能維持	適切な点検及び 整備により、建 設機械の性能を 維持すること で、二酸化室素 及び浮遊粒子板 物質の発生を低 減できる。	低減	а	なし	なし

E /	/ABI7	D / 487	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
影	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
工事の実施	建設機械の稼働	二酸化窒素及び浮遊粒子状物	発生量 の低減 発生原の 低減	工事に伴う 改変区域を できる限り 小さくする	改変区域をさまることでです、働を最小にはのがにののでは、登職のでのでは、でのでのでのでのでのでのででは、できまれば、での質ができまれば、でいばのでは、できまれば、できまれば、できまれば、できまれば、できまれば、できまれば、これが、できまれば、これが、できまれば、これが、できまれば、これが、できまれば、これが、できまれば、これが、できまれば、これが、できまれば、これが、できまれば、これが、できまれば、これが、できまれば、これが、できまれば、これが、できまれば、これが、できまれば、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	低減	a	なし	なし
工事の	資材及び機搬の運搬	二酸化窒素及び浮遊粒子状	発生量の低減	資材の運動を が関連を が関連を が関連を がある。 を は に は に は に は に は に は に は に は に は に は	適切なに機のないでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	低減	a	なし	なし
の実施	に用い る車 の運行	遊粒子状物質の発生	発生原単位の低減	資材及び機 械の運搬に 用いる事計 の配慮	資材及び機械の 運搬に用いる 一の分散ので で を で が で を 行 り 、 に を 行 り た り た り た り た り た り た り た り 、 二 り た り 、 二 り た り 、 二 を り た り 、 と り 、 と り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、	低減	a	なし	なし
工事の実施	建設機械の稼働	粉じん等	発生量 の低減 発生原	工事規模に 合わせた建 設機械の設 定	適切な機械の設定により必要以上の建設機械の配置及び稼働を避けることで、粉じん等の発生を低減できる。	低減	a	なし	なし
施	判	が 発 生	単位の低減	工事現場の 清掃及び散 水	工事現場の清掃 及び散水を行う ことで、粉じん 等の発生を低減 できる。	低減	a	なし	なし

坚治	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
泉夕	音女囚	於 晉	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				仮囲いの設置	仮囲いを設置することで、粉じん等の拡散を低減できる。	低減	a	なし	なし
工事の実施	建設機 械の稼働	粉じん等の発生	発生量 の低減 発生位 低減	工事に伴う 改変区域を できる限り 小さくする	改変区域をできる限りにより、 建設機械のに抑えることをでくり、 を最小限にがいる。 を最小で、 ができる。	低減	a	なし	なし
				工事の平準化	工事の平準化に より片寄った施 工を避けること で、粉じん等の 局地的な発生を 低減できる。	低減	a	なし	なし
				荷台への防 塵シート敷 設及び散水	荷台に防塵シートを敷設するとともに散水することで、粉じん等の発生を低減できる。	低減	a	なし	なし
工事の実施	資びのにるのとなるのになるのでは、	粉じん等の発生	発生量 発生減 発生位減 ほの	資械のい出、の散でで、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、の	資材及び機械の 運搬に用いる車 両の出入りの清掃 及び散水、タイトの洗浄を行う ことで、粉じん 等の発生を低減 できる。	低減	a	なし	なし
	₩ ФЬ+			工事の平準化	工事の平準化に より資材及び機 械の運搬に用い る車両が集中し ないことで、粉 じん等の局地的 な発生を低減で きる。	低減	a	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-1-2 騒音

工事の実施時における建設機械の稼働若しくは資材及び機械の運搬に用いる車両の運行又は列車の走行(地下を走行する場合を除く。)による騒音の影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-1-2 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-1-2 大気環境(騒音)に関する環境保全措置の検討結果

見会	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
形	晋安囚	影 管	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				低騒音型建 設機械の採 用	低騒音型建設機 械の採用により、工事に伴う 騒音の発生を低 減できる。	低減	a	なし	なし
				仮囲い・防 音シート等 の設置によ る遮音対策	仮囲い・防音シ ート等を設置す ることで、遮音 による騒音の低 減効果が見込ま れる。	低減	a	なし	なし
工事の実施	建設機械の稼働	騒音の発生	発生量 の低減 発生原 単位の	工事規模に 合わせた建 設機械の設 定	適切な機械の設定により必要以上の建設機械の配置及び稼働を避けることで、騒音の発生を低減できる。	低減	a	なし	なし
	(製)		低減	建設機械の使用時における配慮	工事の実施にあ たって、高負荷 運転の防止、ア イドリングスト ップの推進等に より、騒音の発 生を低減でき る。	低減	a	なし	なし
				建設機械の 点検及び整 備による性 能維持	適切な点検及び 整備により建設 機械の性能を維 持することで、 騒音の発生を低 減できる。	低減	a	なし	なし

影	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
710		70 E	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
工事の実施	建設機械の稼働	騒音の発生	発生量の低減発生位が発生が	工事に伴う 改変区域を できるくする 工事の 平準	改変区域をでくり、 をでくり、 をでくり、 をした。 をした。 です、 の発えるので、 を表しるので、 を表しるので、 を表しるので、 を表しるので、 でいまので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 に、、で、 ので、 に、、で、 に、、で、 に、、で、 に、、で、 に、、で、 に、、で、 に、、で、 に、、で、 に、、で、 に、、で、 に、、、で、 に、、、で、 に、、、で、 に、、、で、 に、、、で、 に、、、、、、、、、、	低減	a	なし	なし
			低減	化	より片寄った施工を避けることで、騒音の局地的な発生を低減できる。	低減	a	なし	なし
				資材及び機 概いる検及 の点検 を備によ 性能維持	適切な点検及び 整備に機械の を構び機械の車 がの性能を維持を の性能をで、 の発生を低減 きる。	低減	a	なし	なし
工事の実施	資が機搬い の用車 の運行	騒音の発生	発生量 の低減 発生の 単位の 低減	資材及び機 械の運搬に 用いる車両 の運行計画 の配慮	資材及び機械の 運搬に用いる車 両の運行ルート の分散化及び法 定速度の遵守等 を行うことによ り、騒音の発生 を低減できる。	低減	a	なし	なし
				工事の平準化	工事の平準化に より資材及び機 械の運搬に用い る車両が集中し ないことで、騒 音の局地的な発 生を低減でき る。	低減	a	なし	なし

显分	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
彩	音女囚	彩音	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
			騒音の減果の増大	防音壁、防音防災フードの設置	騒音対策が必要壁 対策ではいる ではいる ではいる ではいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる に	低減	a	なし	防一置に観変阻障が能る所等るり眺や、のじがをこ、望日電影るがいといいがあるがいまた。
鉄道	列車の走行	EX	発生量の低減	防音防災フ ードの目地 の維持管理 の徹底	防音防災フード の目地の適切な 点検及び整備を 行い、その性能 を維持すること で、騒音を低減 できる。	低減	a	なし	なし
鉄道施設の供用	(地走 するを) 合く。)	騒音の発生	発生量の低減	桁間の目地 の維持管理 の徹底	桁間の目地の適 切な点検及び整 備を行い、その 性能を維持する ことで、騒音を 低減できる。	低減	a	なし	なし
			騒音の対象を	防音壁の改良	防音壁の嵩上げ 又は防音壁に吸 音機能を備える ことで、騒音を 低減できる。	低減	а	なし	防上と景の照波響可よい、望日電影るの既のである。
			受音点側の回避・低減	個別家屋対 策	家屋の防音工事 等を行うことに より、騒音の影 響を低減でき る。	低減	a	なし	なし

見/	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
彩	音安囚	彩音	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
鉄道施設の供用	列走(をす合くの下行場除)	騒音の発生	受育の低減	沿線の土地利用対策	新合し、緑では、緑のでは、緑のでは、水のでは、水ののででは、のののででは、ののののででは、ののののででは、は、のののでは、のののでは、のののでは、のののでは、のののでは、のののでは、のののでは、のののでは、いいのでは	低減	b	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-1-3 振動

工事の実施時における建設機械の稼働若しくは資材及び機械の運搬に用いる車両の運行又は列車の走行による振動の影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-1-3 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-1-3 大気環境(振動)に関する環境保全措置の検討結果

日乙子	ar et co	日と紹成	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
京/3	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				低振動型建 設機械の採 用	低振動型建設機 械の採用により、工事に伴う 振動の発生を低 減できる。	低減	a	なし	なし
				工事規模に 合わせた建 設機械の設 定	適切な機械の設定により必要以上の建設機械の配置及び稼働を避けることで、振動の発生を低減できる。	低減	a	なし	なし
工事の	建設機	振動	発生量の低減	建設機械の使用時における配慮	工事の実施にあ たって、高負荷 運転の防止、スト ップの推進等に より、振動のぞ 生を低減でき る。	低減	a	なし	なし
の実施	械の稼働	の 発 生	発生原 単位の 低減	建設機械の 点検及び整 備による性 能維持	適切な点検及び 整備により建設 機械の性能を維 持することで、 振動の発生を低 減できる。	低減	a	なし	なし
				工事に伴う 改変区域を できる限り 小さくする	改変区域をでくり ることではののでは ることではののでは を最小ででのでいる。 を最小ででのでいる。 を表している。 を表している。 を表している。	低減	a	なし	なし
				工事の平準化	工事の平準化に より片寄った施 工を避けること で、振動の局地 的な発生を低減 できる。	低減	a	なし	なし

影響	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
ホシー	百久囚	が冒	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				資材の運動を ででである でである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	適切な点が資準がある。 が変に、は、のでででででいる。 をはいるでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	低減	a	なし	なし
工事の実施	資がのにるの機嫌い両行	振動の発生	発生量 の低減 発生位 低減	資材及び機 械の運搬に 用いる車両 の運行計画 の配慮	資材及び機械の 運搬に用いる車 両の運行ルルで法 で速度の登りに を行うことの発生 り、振動のきる。	低減	a	なし	なし
				工事の平準化	工事の平準化に より資材に用い 機の運搬に用い る車両が集中し ないことがの 動の局地的で 生を低減 る。	低減	a	なし	なし
鉄道施設	列車の 走(地下 を走行	振動の	発生量	桁支承部の 維持管理の 徹底	桁支承部の適切 な点検及び整備 を行い、その性 能を維持するこ とで、振動の発 生を低減でき る。	低減	a	なし	なし
の供用	せる する を く。)	発生	の低減	ガイドウェ イの維持管 理の徹底	ガイドウェイの適切な点検及でで、その性能を維持することで、振動の発生を低減できる。	低減	a	なし	なし
鉄道施設の供用	列走 (をす合る 車行地走るに。) 下行場限) **	振動の発生	発生量の低減	ガイドウェ イの維持管 理の徹底	ガイドウェイの適切な点検及でを強を行い、その性能を維持することで、振動の発生を低減できる。	低減	a	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-1-4 微気圧波

列車の走行による微気圧波の影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減する ために、表 9-1-4 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-1-4 大気環境(微気圧波)に関する環境保全措置の検討結果

影	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
			視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				緩衝工の設	微気圧波対策が				緩衝工を設
				置	必要な箇所であ				置すること
					るトンネル及び				により、景
					防音防災フード				観・眺望の
					の出入口に適切	任油		なし	変化、日照
华生		独			に緩衝工を設置	低減	a	なし	阻害、電波
道		気			することによ				障害の影響
鉄道施設	列車の	微気圧波	発生量		り、微気圧波を				が生じる可
\mathcal{O}	走行	\mathcal{O}	の低減		低減できる。				能性があ
供用		発 生							る。
川川		生		緩衝工の維	適切な点検及び				
				持管理の徹	整備を行い、そ				
				底	の性能を維持す	Irt. SH		J. 1	<i>3</i> .1
					ることで、微気	低減	a	なし	なし
					圧波を低減する				
					ことができる。				

※ 実施主体

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-2 水環境

9-2-1 水質

工事の実施(切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事、工事施工ヤード及び工事用道路の設置)による水質の影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-2-1 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-2-1 水環境(水質)に関する環境保全措置の検討結果

E/	48K III.	日之初取	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
彰	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				工事排水の適切な処理	工事に 事に 本の での での での での での での での での での で	低減	a	なし	なし
工事の実施	切土工 等又は 既存物 工作物 の除去	水の濁り	水の濁りの低減	工事に伴う 改変区域を できる限り 小さくする	工事に伴う改変 区域をできる限 り小さくするこ とで、水の濁り の発生を低減す ることができ る。	低減	a	なし	なし
				仮締切工の実施	公工性工にらの域止水影に出来のでは、き遊共用を高行りる辺のる濁をがなりないがでいた。とは、まないののでは、きが、ないでは、まないが、ないでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは	低減	а	なし	なし

FI.		FIZ VEIT	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
彰	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
T	切土工			水路等の切回しの実施	公工等施り巻浮公流こり低で料に切る改上物用をで係する水をによれ周へすの響とないますの域止水影この路実よりる辺のる濁をがある。	低減	a	なし	なし
工事の実施	等又は 既存の 工作物 の除去	水の濁り	水の低減	工事排水の 監視	工事排水の水の 濁りを監視し、 処理状況を定期 的に確認するこ とで、水質管理 を徹底すること ができる。	低減	a	なし	なし
				処理装置の 点検・整備 による性能 維持	処理装置を設置 する場合・整備 切な点検・整維持 による性能工事 により、正処理 が底することが できる。	低減	а	なし	なし
工事の実施	トンネ ルのエ	水の濁り	水の濁低	工事排水の適切な処理	工事により選水 り選水 処理等、がでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	低減	a	なし	なし
施	事	9	減	工事排水の 監視	工事排水の水の 濁りを監視し、 処理状況を定期 的に確認するこ とで、水質管理 を徹底すること ができる。	低減	a	なし	なし

日公	纲(m) To	日之组取	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
京	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
工事の実施	トンネ ルのエ 事	水の濁り	水の濁りの低減	処理装置の 点検・整備 による性能 維持	処理装置を設置 する場合は、適 切な点検・整備 による性能維持 により、工事排 水の適正処理を	低減	a	なし	なし
20					が過止処理を 徹底することが できる。				
				工事排水の適切な処理	工事に まり な水で での でが での での での での での での での での でで でいる とは 大さる 大さる 大さる 大さる 大さる 大いでで のるる とが でいる ない でいる ない でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でい	低減	a	なし	なし
工事の実施	工事施 エヤー ド及び 工事用	水の濁り	水の濁の低	工事に伴う 改変区域を できる限り 小さくする	工事に伴う改変 区域をできるる。 り小さくする濁り の発生を低減す ることができる。	低減	a	なし	なし
施	道路の設置	9	減	工事排水の監視	工事排水の水の 濁りを監視し、 処理状況を定期 的にで、水質で を徹底すること ができる。	低減	a	なし	なし
				処理装置の 点検・整備 による性能 維持	処理装置を設置 する場合は、整備 による性能維持 により、正処理を 徹底することが できる。	低減	a	なし	なし

H.A.		E 4.488	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
影	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
			-	工事排水の	工事により発生				
				適切な処理	する濁水は必要				
					に応じて濁水処				
					理等の対策によ				
					り、適切に処理				
					したうえで排水	低減	a	なし	なし
					することで、公				
					共用水域への影				
					響を低減するこ				
					とができる。				
				工事に伴う	工事に伴う改変				
				改変区域を	区域をできる限				
				できる限り	り小さくするこ				
				小さくする	とで、水の濁り	低減	a	なし	なし
					の発生を低減す				-
					ることができ				
					る。				
				仮締切工の	公共用水域内の				
				実施	工事に際し止水				
工	切土工		>=		性の高い仮締切				
事	等又は	水	水の汚		工を行い、改変				
工事の実施	既存の	の	れの低		により巻き上げ				
施	工作物	汚 れ	減		られる浮遊物質	() b		, ,	
	の除去				の周辺公共用水	低減	a	なし	なし
					域への流出を防				
					止することで、				
					水の濁りに係る				
					影響を低減する				
					ことができる。				
				水路等の切	公共用水域内の				
ĺ				回しの実施	工事に際し水路				
					等の切回しを実				
					施することによ				
					り、改変により				
					巻き上げられる				
					浮遊物質の周辺	低減	a	なし	なし
					公共用水域への				
					流出を防止する				
					ことで、水の濁				
					りに係る影響を				
					低減することが				
					できる。				

見会	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
京/·	音安囚	必管	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				工事排水の	工事排水の水の				
				監視	濁りを監視し、				
					処理状況を定期				
					的に確認するこ	低減	a	なし	なし
					とで、水質管理				
_	切土工				を徹底すること				
工事	等又は	水	水の汚		ができる。				
の実施	既存の	の 汚	れの低	処理装置の	処理装置を設置				
美 施	工作物	れ	減	点検・整備	する場合は、適				
70	の除去			による性能	切な点検・整備				
				維持	による性能維持	低減		なし	なし
					により、工事排	似例	a	なし	/L U
					水の適正処理を				
					徹底することが				
					できる。				
				工事排水の	工事により発生				
				適切な処理	する濁水は濁水				
					処理等の対策に				
					より、適切に処				
					理したうえで排	低減	a	なし	なし
					水することで、				
					公共用水域への				
					影響を低減する				
					ことができる。				
				工事排水の	工事排水の水の				
工事	トンネ	水	水の汚	監視	濁りを監視し、				
事の	ルのエ	\mathcal{O}	水の低		処理状況を定期				
実施	事	汚 れ	減		的に確認するこ	低減	a	なし	なし
施	7	40	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /		とで、水質管理				
					を徹底すること				
					ができる。				
				処理装置の	処理装置を設置				
				点検・整備	する場合は、適				
				による性能	切な点検・整備				
				維持	による性能維持	低減	a	なし	なし
					により、工事排	此小以	а	<i>、</i> よし	<i>、</i> よし
					水の適正処理を				
					徹底することが				
	· 字坛子				できる。				

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-2-2 水底の底質

工事の実施(切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事、工事施工ヤード及び工事用道路の設置)による水底の底質の影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-2-2 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-2-2 水環境(水底の底質)に関する環境保全措置の検討結果

見会	郷田口	日く幼郎	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
京	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				河川内工事	河川内工事にお				
				における工	いて工事により				
	切土工	水		事排水の適	排出する水は、				
工事	等又は	水底の	水底の	切な処理	必要に応じて適				
	野存の		広 質 の		切に処理したう	低減		なし	なし
の実施	工作物	底質の	保全		えで排出するこ	143.793	a	なし	/4 C
施	の除去	変	本土		とで、水底の底				
	の赤云	化			質への影響を低				
					減することがで				
					きる。				

※ 実施主体

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-2-3 地下水の水位及び水質

工事の実施(トンネルの工事)又は鉄道施設(トンネル)の存在による地下水の影響を、 事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-2-3 に示す環境保全措置の 検討を行った。

表 9-2-3 水環境(地下水)に関する環境保全措置の検討結果

見么	继而口	見く 組収	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
彩	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
工事の実施・鉄道施設	トル事鉄設ンネエ施ト	地下水の水質・水位	地水位影低下水水のの	薬液注入工 法における 指針の順守	薬施「なななななななななななななななななななななななななななななななななななな	低減	a	なし	なし
の供用	ル)の存在	への影響	区的	適切な構造及び工法の採用	工事の施工に先 立ち地質、地質を 水の調査を し、 が構造な は を採用する とに とに できる。	低減	a	なし	なし

※ 実施主体

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-2-4 水資源

工事の実施(トンネルの工事)又は鉄道施設(トンネル)の存在による水資源の影響を、 事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-2-4 に示す環境保全措置の 検討を行った。

表 9-2-4 水環境(水資源)に関する環境保全措置の検討結果

影	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
715		NO E	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				工事排水の適切な処理	工事により まないで の対策に理すれる での対策が ががいました。 でのがいませい。 でのがいませい。 でのがいませい。 でのがいませい。 でのがいませい。 でのがいませい。 でのがいませい。 でのがいませい。 でのがいませい。 でのがいませい。 でのがいる。 でのする。 でのする。 でのする。 でのする。 でのする。	低減	a	なし	なし
工事の実施・鉄洋	トンネ ルのエ 事 鉄道施	水資源利用	水資源利用への影響	工事排水の 監視	工事排水の水質 を監視し、処理状 況を定期的に確 認することで、水 質管理を徹底す ることができる。	低減	a	なし	なし
鉄道施設の供用	設 (ト ンネ ル) の 存在	への影響	の低減	処理装置の 点検・整備 による性能 維持	処理装置を設置 する場合は、適切 な点検・整備によ る性能維持により、工事排水の適 正処理を徹底す ることができる。	低減	a	なし	なし
				適切な構造 及び工法の 採用	工事の施工に先 立ち地質、地下水 の調査を実施し、 適切なトンネル 構造及び工法を 検討し採用する ことにより影響 を低減できる。	低減	a	なし	なし

見么	织而口	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
京	響要因	京晋	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				薬液注入工 法における 指針の順守	薬工法と 薬注入際はよる による による ではまれる ではまれる ではまする ではまする ではまする ではまする ではまする ではまする ではまする ではまする ではまする でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でい	低減	a	なし	なし
工事の実施・	トンネ ルの工 事	水資源利用	水資源利用へ	地下水等の 監視	工事者事工事では、工事を出事に、工後の大力を関係した。これが、大力のでは、大力ののでは、大力のいかが、大力のいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいかいか	低減	a	なし	なし
鉄道施設の供用	鉄道施 設 (ト ンネ ル) の 存在	門への影響	利用への影響の低減	応急措置の 体制整備	地下水等の監視の 状況から地下がら地で が、傾合に、 がに給水で がに給水で がに給水で がに がでいな がでいな がでいな が、 がい が、 がでいな が、 がい が、 がい が、 がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい	低減	а	なし	なし
	※ 字施力			代替水源の確保	他を水要確た置周てをでへきの環施の水で合はて域他のす源をは、、にのす源をは、、にのす源をは、、にのす源をは、、にのす源をでかました。とのでは、、にのないのでは、、にのないのでは、などでは、いい源と用では、重をつ措のい源と用でも、重をつける。	代償	a	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-3 土壌環境、その他

9-3-1 重要な地形及び地質

工事の実施(工事施工ヤード及び工事用道路の設置)又は鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設、保守基地)の存在による地形及び地質への影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-3-1 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-3-1 土壌環境(重要な地形及び地質)に関する環境保全措置の検討結果

影	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
况/	音女囚	が首	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
工事の	工事施 エヤー ド及び	重要な地形及び	重地びへ要形地のな及質影	地をりたヤエのきさな施及道のでは、エー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	工及の地きすこ地の比がでいますででは、できると形とでをです。これでを響がいる。これでを響がいる。これではいる。これでは、でくるなっとす要質避る。には、でくるなっとす。	回避 又は 低減	a	なし	なし
の実施	工事用 道路の 設置	地質への影響	響の回避又は低減	地形の改変 をでいるる りいて た工法又 構造の採用	地形の限かってででは、大田では、大田では、大田では、大田では、大田では、大田では、大田では、大	回避 又は 低減	a	なし	なし
鉄道施設の供用	鉄設ンル表は式上駅電設守地存道(ネ、式掘、式、施、基)在ま施ト 地又割嵩、変 保 の な	重要な地形及び地質への影響	重地びへ響避低を及質影回は	地をりたのきささ施のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、	工地の実特にでをさ設定重地回き、等をの細え変小施選、びをで、のないとし、生のないでは、ないのは、まし形るた構こ地のはいいのは、生で、の細胞のは、生で、のは、生じが、よいのは、ないのは、ないのは、のは、	回避は滅	а	なし	なし

※ 実施主体

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-3-2 地盤沈下

工事の実施(トンネルの工事)による地盤沈下に係る環境影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-3-2に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-3-2 土壌環境(地盤沈下)に関する環境保全措置の検討結果

影	響要因	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措置 の効果	措置の 区分	実施 主体	効果の 不確実性	他の環境要素への影響
工事の実施	トンネ ルのエ 事	地盤沈下の発生	地盤沈下又低減低減	適切な構造 及び工法の 採用	地山の安定を確 保することによ り影響を回避又 は低減できる。	回避 又は 低減	a	なし	なし

※ 実施主体

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-3-3 土壌汚染

工事の実施(切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事)による土壌汚染の影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-3-3 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-3-3 土壌環境 (土壌汚染) に関する環境保全措置の検討結果

見会	郷番口	日く組収	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
京	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
工事の実施・鉄道施設の供用	切等既工の出土又存作除工はの物去	土壌汚染の発生	土染避	有有と合切を事がある。本法指をのの認適適を表している。本語のでは、大は、大は、大は、大は、大は、大は、大は、大は、大は、大は、大は、大は、大は	汚あし有をの準有がた汚基理土で薬施「にの暫づとの土場物認果適物らに対きる汚る注す液る工指実、別お壌合質す、合質かは策適こ染。入す注建に針施土が遺は有。境な存な土等にで回 法際工工すにる汚水遇、無そ基い在っ壌に処、避 をは法事る基こ染	回避回避	a a	なしなし	なしなし
	トンネ ルの工 事	土壌汚染の発生	土壌汚回避	発生土に含まれる重金 属等の定期 的な調査	を回避できる。 発生土属等のにまれるまれる事をに、 を重要に、 を重要に、 を主要に、 を主要に、 を生まれる。 を生まれる。 を生まないで、 を生まれる。 を生まれる。 を生まれる。 を生まないで、 を生まない。 をした。 をしている。 を生まない。 をした。 をした。 をした。 をしている。 を生まない。 をした。 をした。 をした。 をした。 をした。 をした。 をした。 をした	回避	а	なし	なし

見会	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
彩	音安囚	影音	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
工事の実施		<u>±</u>		仮置場における発生土の適切な管理	発にシ置土す金確間る出壌さの、覆等切とのる水属止を仮側い、にで有ま等等し回である水属止をである水属止をでれる。	回避	a	なし	なし
施・鉄道施設の供用	トンネ ルのエ 事	土壌汚染の発生	土壌汚染の回避	工事排水の適切な処理	処理装置により 工事排水を適切 に処理したうえ で排水すること で、土壌汚染を 回避又は低減で きる。	回避	a	なし	なし
				薬液注入工 法における 指針の順守	薬液注入るの 工で をは 大な による で で で で を で に に の を に は と で に に に に に に に に に に に に に	回避	a	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-3-4 日照阻害

鉄道施設(嵩上式、駅、変電施設、保守基地)の存在による日照阻害に係る影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-3-4 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-3-4 その他 (日照阻害) に関する環境保全措置の検討結果

影	響要因	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措置 の効果	措置の 区分	実施 主体	効果の 不確実性	他の環境要素への影響
鉄道施設の供用	鉄設上駅電設守道(式、施、基 施嵩、変 保	日陰の発生	日との発低	鉄道施設 (嵩上式、 地上駅)の 構造物の形式・配置等 の工夫	鉄式構配はドる桁又のとをで満し、 構配はドる桁又のとをで進し、 では、 で回きるがないののでは、 で回さるのでは、 で回さるのでは、 では、 でいるのでは、 でいるでは、	回避以減	a	なし	なし
	地)の存在			鉄道施設 (変電施設、保守基地)の配置 等の工夫	鉄道施設 (変電 施設、保守基地) の配置等の工等と の正より住居等保 の距離を確保日照 ることを回避さる。 低減できる。	回避 又は 低減	a	なし	なし

※ 実施主体

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-3-5 電波障害

鉄道施設(嵩上式、駅、変電施設、保守基地)の存在による電波障害に係る影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-3-5 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-3-5 その他 (電波障害) に関する環境保全措置の検討結果

株置			1	I	I	早古/「<因りの場・	1	ı				
横置 の効果 区分 主体 不確実性 素への影 受信施設の移設 受信施設の移設 又は改良によ り、電波障障 国避 又は なし なし 影響を回避できる。 鉄道施設 (変電 施設、保守基地)の配置等の工夫 により、電池できる。 鉄道施設 (変電 施設、保守基地)の配置等の工夫 により、電池できる。 鉄道施設 (嵩上式、地上駅)の構造物の形式・配置等の工夫で 桁高の検討や桁下の空間を確保 することにより、電波障害の検討や桁下の空間を確保 することにより、電波障害の検討や桁下の空間を確保 することにより、電波障害の検討や桁下の空間を確保 することにより、電波障害の 験響を回避できる。 共同受信施 設の設置 共同受信施設の 設置により、電 波障害の影響を回避できる。 カル なし なし かん は減 を は なし なし なし 変し ない	影	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要		
移設又は改良により、電波障害の影響を回避又は (低減できる。 (を) を	70		712 E	視点			区分	主体	不確実性	素への影響		
良												
影響を回避又は 低減 (低減 できる。 鉄道施設 (変電 施設、保守基地) の配置等の工夫 により、電波障害のの形 できる。 鉄道施設 (変電 施設、保守基地) の配置等の工夫 により、電波障害の形響を回避できる。 鉄道施設 (嵩上式、地上駅)の 構造物の形式・配置等の工夫で					移設又は改	又は改良によ	回避					
 鉄道施設 (変電施 設、保守基地) の配置等の工夫地)の配置等の工夫地)の配置等の工夫により、電波障害の影響を回避できる。 鉄道施設 (素上式、地上駅)の構造物の形式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					良		又は	a	なし	なし		
鉄道施設(変電施施設(楽守基地) 設、保守基地) 設、保守基地) の配置等の工夫 により、電波障害の影響を回避できる。 (変電施 施設、保守基地) の配置等の工夫 により、電波障害の影響を回避できる。 鉄道施設(嵩上式、設定電源を設定できる。 (嵩上式、武を電波障害の形式・配置等の工夫で析高の検討や桁下の空間を確保することにより、電波障害の発生地)の表ととにより、電波障害の影響を回避できる。 は 株道施設(富上式、設定管害の発生地) の構造物の形式・配置等の工夫で表ことにより、電波障害の影響を回避できる。 本し なし なん で表る。						影響を回避又は	低減					
株						低減できる。						
禁道施設のの供用 要生時の対応 設、保守基地)の配置等の工夫により、電波障害の影響を回避できる。 会と回避できる。 鉄道施設(富上式、財工駅)の構造物の形式・配置等の工夫でおいます。 大・配置等の工夫でおいます。 大・配置等の工夫でおいます。 大・配置等の工夫でおいます。 大・配置等の工夫でおいます。 大・配置等の工夫でおいます。 本・配置等の工夫でおいます。 本・配置等の工夫でおいます。 本・配置等の工夫でおいます。 本・配置等の工夫でおいます。 本・配置等の工夫でおいます。 本・配置等のできる。 本・配置等の工夫でおいます。 本・配置等の主ます。 本・配置等の工夫でおいます。 本・配置等の工夫でおいます。 本・配置等の工夫でおいます。 本・配置等の工夫でおいます。 本・配置等の工夫でおいます。 本・配置等の主ます。 本・配置等の主まする。 本・配置等の主まする。 本・配置等の主まする。 本・配置等の主まする。 本・配置等の主まする。 本・配置を定する。							鉄道施設	鉄道施設(変電				
(本) の対応					(変電施 施設、保守基地)							
大田				発生時	設、保守基	の配置等の工夫	同沙		<i>t</i> >1	<i>t</i> a 1		
電波障害の発生の低 鉄道施設 (嵩上 式、地上駅)の構造物の形式・耐置等の工夫で析高の検討や桁下の空間を確保することにより、電波障害の発生地)の存在 共同受信施設の 設置により、電 設障害の影響を回避できる。 サストラ できる。 また は は は なし なし なし ない は は は は は ない ない は は は は は ない ない は は は は				の対応	地) の配置	により、電波障	凹班	a	なし	75 C		
(株) 道施設の供用 (株) 道施設(富上式、地上駅)の構造物の形式・配置等の工夫で桁高の検討や桁下の空間を確保することにより、電波障害の発生地)の存在 (本) 本し (株) 子基地)の存在 (本) 表生地)の存在 (本) がは、地上駅)の構造物の形式・配置等の検討や桁下の空間を確保することにより、電波障害の影響を回避できる。 (本) 本し (本) がは、地上駅)の構造物の形式・配置等の検討や桁下の空間を確保することにより、電波障害の影響を回避できる。 (本) なし (本) がは、地上駅)の構造物の形式・配置等の大管・の工夫 (本) なし (本) がは、地上駅)の構造物の形式・配置等の大管・の工夫 (本) なし (本) がは、地上駅)の構造物の形式・配置等の検討や析下の空間を確保することにより、電波障害の影響を設定する。 (本) なし (本) がは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、					等の工夫	害の影響を回避						
鉄道施設(富上式、減 生の低減 (嵩上式、地上駅)の構造物の形式・配置等の工夫で桁高の検討や桁下の空間を確保することにより、電波障害の設置 中間 本し なし 大京、変電施設、保守基地)の存在 共同受信施設の設置 共同受信施設の設置により、電波障害の影響を回避できる。 大口避天は低減で度害の影響を収は減で度害の影響を収は減で度害の影響を収は低減で度害の影響を収は減で度きる。 上式、地上駅)の構造物の形式・一般で高の検討や桁下の空間を確保することにより、電波障害の影響を収する。 本し なし				電波障		できる。						
鉄道施設(富上式、駅、変電施設の供用 電波障害の工夫でお高の検討や桁下の空間を確保することにより、電波障害の発生地)の存在 東口受信施設の設置 共同受信施設の存在 共同受信施設の設置により、電波障害の影響を回避できる。 共同受信施設の設置により、電波障害の影響を回避できる。 大口避アスは低減でを含る。				害の発								
鉄道施 設(嵩 上式、 買施 設の供用 古 本・配置等の工夫で 桁高の検討や桁 下の空間を確保 することにより、電波障害の 影響を回避できる。 回避 a なし 共同受信施 設の設置 共同受信施設の 設置により、電 波障害の影響を 可避又は低減で きる。 四避 又は 区域 (低減 a なし				生の低	(嵩上式、	式、地上駅)の						
設(富 上式、 道施設の供用 電波 電波 電施 電施 電放、保 守基 電波 電波 電海の大 の工夫 面避 ・下の空間を確保 することにより、電波障害の 影響を回避できる。 回避 ・大原の空間を確保 ・なることにより、電波障害の ・大原の設置 本月受信施設の ・設置により、電 ・設の設置 世間避 ・大原で表し、 ・大原で表し、 ・大原で表し、 ・大原で表し、 ・大原で表し、 ・大原で表し、 ・大原で表し、 ・大原で表し、 ・大原で表し、 ・大原の設置 一旦避 ・大原で表し、 ・大原である。 ・大原で表し、 ・大原で表し、 ・大原で表し、 ・大原である。 ・大原で表し、 ・大原で表し、 ・大原である。 ・大原である。 ・大原で表し、 ・大原である。 ・大原で表し、 ・大原である。 ・大原で表し、 ・大原である。 ・大原で表し、 ・大原である。 ・大原で表し、 ・大原である。 ・大原でな。 ・大原である。 ・大原でな。 ・大原でな。 ・大原でな ・大を ・大原でな ・大原でな ・大を ・大原でな ・大原でな ・大 ・大原でな ・大原でな ・大原でな ・大 ・大 ・た ・大 ・大		ひた /大 1 ト		減	地上駅)の	構造物の形式・						
鉄道施設の供用 上式、変電施設、保守基地)の存在 電波障害の発生地)の存在 共同受信施設の設置 共同受信施設の設置により、電波障害の影響を収入は、電波障害の影響を収入は低減できる。 担避又は低減できる。 本し なし	鉄道施設	設上 駅電 設 宗 銀 条			構造物の形	配置等の工夫で						
供用 設、保守基 地)の存在 共同受信施設の設置 共同受信施設の設置 設置により、電 設置により、電 波障害の影響を 又は a なし 回避又は低減で 低減 きる。			暈		式・配置等	桁高の検討や桁	11 \n+		2. 1	J. 1		
供用 設、保守基 地)の存在 共同受信施設の設置 共同受信施設の設置 設置により、電 設置により、電 波障害の影響を 又は a なし 回避又は低減で 低減 きる。			波		の工夫	下の空間を確保	回避	a	なし	なし		
供用 競人 (株) (中基) (地) の存在 発生 上間受信施設の表面により、電設面により、電波できる。 要別面により、電波できる。 まる。			障			することによ						
供用 競人 (株) (中基) (地) の存在 発生 上間受信施設の表面により、電設面により、電波できる。 要別面により、電波できる。 まる。	\mathcal{O}		者の			り、電波障害の						
地) の 共同受信施 共同受信施設の 設置により、電 回避 波障害の影響を 又は a なし なし 回避又は低減で 低減 きる。	供		発			影響を回避でき						
存在 共同受信施 設の設置 共同受信施設の 設置により、電 政障害の影響を 又は 回避又は低減で きる。 回避 なし なし	用					る。						
設置により、電 回避		·			共同受信施	共同受信施設の						
回避又は低減で低減きる。		子仕 			設の設置	設置により、電	回避					
きる。						波障害の影響を	又は	a	なし	なし		
						回避又は低減で	低減					
個別受信施し個別受信施設の						きる。						
					個別受信施	個別受信施設の						
				√ Li. n-L-	設の設置	設置により、電	回避					
発生時 波暗実の影響を 又は a たし たし								a	なし	なし		
の対応 回避又は低減で 低減				の対応								
有線テレビ 有線テレビジョ					有線テレビ							
ジョン放送 ン放送の活用に 回避							回避					
								a	なし	なし		
の影響を回避又は低減												
						は低減できる。						

影響要因		影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
泉ケ 電	音女囚	於音	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
鉄道施設の供用	鉄設上駅電設守地存道(式、施、基)在 の (本) を (本) を (本) の (本) の (本) の (本) の (本) を (も) を (も	電波障害の発生	視点 発生時 の対応	指置生物学に基づく改善策の実施	の共起ジ障るするい、にに害とのが、というでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいでは、はいいのでは、はいいいのでは、はいいいのでは、はいいいのでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいいのでは、はいいいのでは、はいいいのでは、はいいいのでは、はいいいのでは、はいいいのでは、はいいいのでは、はいいいのでは、はいいいのでは、はいいいのでは、はいいのではいいので	区分 回避又 は低減	主体 a	不確実性	素への影響 なし

a:東海旅客鉄道株式会社

9-3-6 文化財

鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設、保守基地)の存在による文化財への影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-3-6 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-3-6 その他 (文化財) に関する環境保全措置の検討結果

			X 9-0-0		別)に関する場合				T
堲	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
が	音女囚	松音	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				適切な構造及び工法の採用	適切な構造、工 法等を採用する ことで文化財へ の影響を回避又 は低減できる。	回避又 は低減	a	なし	なし
工事の実施	鉄設ンル表は式上駅電設道(ネ、式掘、式、施、施ト・地又割嵩、変・保	文化財への影響	文へ響避低化のの又減財影回は	試掘・確認 調査及び発 掘調査の実 施	事がいる。とは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	回避又は低減	а	なし	なし
	守基地)の存在			遺跡の発見に関する届出	法調中がき教届後いと対で影低令査に発は育出のて協処、響で上がにれの会、い係行こ財避るさ工遺た旨等そに箇いとへ又をでいる。、事跡とをへのつ所、のは、、事跡とをへのつ所、のは、	回避又は低減	a	なし	なし

※ 実施主体

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-3-7 磁界

列車の走行(地下を走行する場合を除く。)による磁界の影響は、「特殊鉄道に関する技術上の基準を定める告示の解釈基準」に基づく基準値よりも十分小さく、事業者により実行可能な範囲内で磁界の影響を回避又は低減していることから、特段の環境保全措置は実施しない。

9-4 動物・植物・生態系

9-4-1 動物

工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置)及び鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設及び保守基地)の存在による動物の影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-4-1 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-4-1 動物に関する環境保全措置の検討結果

影	響要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施 主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
工事の実施	工事ヤ ード及 び工事 用道路 の設置	保全対象種全般	地変る地失・縮小	地表改変 による生 息地の间 失等の回 避又は低 減	重要な種 の生息地 の全体又 は一部を 回避	重要な種の生息地への影響を回避、低減できる。	回避 又は 低減	а	なし	なし
I		保全対象種全般	地変と ると を 生の 消 失・縮小	地表改変 による生 息地の消 失等の回 避、低減	工事に伴 う改変区 域をでき る限り小 さくする	地表改変に よる生育地 の消失等の 回避、低減 できる。	回避 又は 低減	a	なし	なし
工事の実施・鉄道施設の	工事ヤ ド及 ボゴ道 の設 置、鉄	保全対象種全般	地変る地 を を 生の が 編小	地表改変 による生 息地の消 失等の回 避、低減	侵入防止 柵の設置	中型及び大型の哺乳に 等の侵入に よる影響を 回避、低減 できる。	回避 又は 低減	a	なし	なし
一般の存在	道施設の存在	保全対象種全般	工実道のに移害の鉄設在る阻	移動阻害の低減	小動物が 脱出可能 な側溝の 設置	爬虫類や両 生類等への 影響を回 避、低減で きる。	低減	а	なし	なし
工事の実施	資材及 び機械 の運用 に用車 の運行	保全対象種全般	工伴息へ響	工事に伴 う生息環 境への影 響の低減	資材運搬 等の適正 化	車両の運行ルーをである。運行をである。	低減	а	なし	なし

影	響要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
工事の実施		オオタカ、クマタカ	工事の 実施る地 の影響	生息地へ の影響低 減	営巣環境の整備	鳥類等の繁殖活動への 影響を低減 できる。	低減	а	あり	なし
	エーび用の事が工道設置	保全対象種全	濁流よ質下のに水低	濁水の流 入による 影響の低 減	汚濁処理 設備及び 仮設沈砂 池の設置	汚設及砂に水抑こ類環響き処理仮のり発らでのへ低の外発らでのへ低いない。生の減がる魚息影で	低減	а	なし	なし
		保象る (類般対す類禽全	工伴息へ響に生境影	工事に伴 う生息環 境への影 響の低減	防ト音動設機の低低の機関	低振設用騒のえと等境をる・ののり振がる鳥息影でいる鳥息影では建採、動抑こ類環響き	低減	а	なし	なし
		保全対象種全般	工に生境影響	工事等に 伴う生息 環境への 影響の低 減	照明の漏れ出しの抑制	設明部いすでのどを低る力け配よる、昆へ回減で上る、昆へ回減で上、光類影又でのとなる。	回避 又は 低減	а	なし	なし

影	響要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
工事の実施		オオタカ、クマタカ	工伴息へ響	工事に伴 う生息環 境への影 響の低減	コンディ ショニン グの実施	段工き徐に等せど猛重の減的模しに多しているに禽要影でにをして騒れとり等種をるにをして騒れとり等種をるのが、事音さな、のへ低。	低減	а	なし	なし
	工事ヤレび工道の設置	保全対象種全般	工伴息へ響	工事に伴 う生息環 境への影 響の低減	工事従事 者への講 習・指導	不内入捨なて者る人乱響きまのやのに事指と的よ低をるがなるがいました。	低減	а	なし	なし
		保全対象	地変る地失小改よ息消縮	地表改変 に 息地のの と 等 低 減	エヤの林植る境の確保工等、護よ環	工にし工の縁化と重生変動響き事際たヤ緑のをに要息化物をる実使事ドや護るり種境伴の減をのがしている。	低減	а	なし	なし

影	響要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施 主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
鉄道施設の存在	鉄道施 設の存 在	カズオサコムカジエオシ、カンジェスイカジカ	生へ響鉄設る地断息の及道に生の地影び施よ息分	生の減形変生のがれに動分息影、状に息連遮るよ経断地響河のよ環続断こる路断にる路	付替え河 川におけ る多自然 川づくり	付でづ施に該息な環すで替多くすよ河す種境るきえ自りるり川るのをこる河州ををこ、に重生代と。川川実と当生要息償が	代償	а	あり	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-4-2 植物

工事の実施(切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事、工事施工ヤード及び工事用道路の設置)又は鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設及び保守基地)の存在による植物の影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-4-2 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-4-2 植物に関する環境保全措置の検討結果

影	響要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保 全措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施 主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
工事の実施		保全対象種全般	地変る地失小	地変る地失回低表に生の等避減	重種育の又部避要の環全はを	重要な種の 生育環境の 全体又は一 部を回避す ることで、 影響を回避 又は低減で きる。	回避 又は 低減	а	なし	なし
	エ事ヤで工事が、工事が、工事が、工事が、工事が、工事が、工事が、工事が、	保全対象種全般	地変る地失小	地変る地失回低表に生の等避減	工伴変をる小すに改域きけく	生改るくで種を低る環で小こ要影又きのきさとな響はる。	回避又は低減	а	なし	なし
施	の設置	保全対象種全般	地変る地失小改よ息消縮	地変る地失回低表に生の等避減	工工ド緑縁植よ然の華ヤ等化保栽る環保施一の林護に自境	工にし工の縁化と重生変植響きのし工一化保図よな環にへ低。実使事ドや護るり種境伴の減施用施等林緑こ、ののう影で	低減	а	なし	なし

影	響要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保 全措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
工事の	工事ヤード及	保全対象種 全般	工事に 伴う境 への影響	工伴身ののという。	工事従っまる。指導習・指導	工事のない 事区不ら制を ないました。 ないないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 でいる。 ないでは、 ないでは	低減	a	なし	なし
の実施	び工事 用道路 の設置	保全対象種全般	濁流よ質下	濁流よ響減	汚理及設池置処備仮砂設	汚濁及砂に水抑こ類境をといる。というでは、ないなどのでのでは、ないなどのでのでは、ないがである。というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、	低減	а	なし	なし

影	響要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保 全措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
工事の実施	エーび用の事が工道設を	ハヒライカカイシウウタソメヤヤエサンカメビワ、ンワタスジチウハママビイタカ、オーアユ、ゲタキ、ジウユネハシナーモーオキーチデラーキツリ、イダワーダーイノーョ、ン・、ボ、・ラダワーダー、イーョ、ン・、ボ、	地変る地失小表に生の・改よ育消縮	地変る地失回低表に生の等避減改よ育消の、	重種植・要の播種	重移すで失響きな・こ種よ代。種播とのる償を種(消影で)	代償	a	あり	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-4-3 生態系

工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の通行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事、工事施工ヤード及び工事用道路の設置)又は鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設及び保守基地)の存在による動物の影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-4-3 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-4-3 生態系に関する環境保全措置の検討結果

影	響要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施 主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
工事の実施	工事ヤードス び工事 用道路 の設置	保全対 象種全 般	地表改変 による生育 地の消 失・縮小	地表改変 による生 息・生育 地の回 等の回 避、低減	重要な種 の生息地 の全体又 は一部を 回避	重要な種の 生息地への 影響を回避 又は低減で きる。	回避 又は 低減	a	なし	なし
工事の実施・鉄道施設の存在	エーび用の置鉄設在事ド工道設、道のを	保全対象種全般	地表改変 による生 育地の消 失・縮小	地表改変 による 育地の の と 、 低 減 と 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	工事に伴 う改変区 域をでき る限り小 さくする	注目種の生息地への影響を回避又は低減できる。	回避 ス低減	а	なし	なし
工事の富	資材及 び機械 の運搬 に用い る車の	保全対象種全般	工事に伴 う生息環 境への影 響	工事に伴 う生息環 境への影 響の低減	資材運搬 等の適正 化	動物全般への影響を低減できる。	低減	а	なし	なし
実施	工事ヤ ード及 び工事 用道路 の設置	オオタカ、クマタカ	工事の実 施による 生息地へ の影響	生息地へ の影響低 減	営巣環境 の整備	鳥類等の繁殖活動への 影響を低減できる。	低減	a	あり	なし

影	響要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
	て声し	カワネズシンボタル	濁水の流 入による 水質の低 下	濁水の流 入による 影響の低 減	汚濁処理 装置及び 仮設沈砂 池の設置	汚置沈置濁がる注息影で処び心よのえと種境をる理仮のり発らでのへ低をあるとをでのへ低いまします。	低減	а	なし	なし
工事の実施	エーび用の設置を開始を	オカシクカ	工事に伴 う生息環 境への影 響	工事に伴う生息環境への低減響の低減	防音シート、・ 動型 砂機械 が 採用	防や低振設用騒のえと種のへ低る音防騒動機に音発らで(生の減ら)音音型械よ、生れ、鳥息影で一扉・ののり振がる注類環響きト、低建採、動抑こ目)境を	低減	а	なし	なし
工事の実施・鉄道施設の存在	エーび用の置鉄設在事ド工道設、道の大及事路を存存を	ゲンジ ボタル	工事等に 伴う生息 環境への 影響	工事等に伴う生息環境への影響の低減	照明の漏 れ出しの 抑制	設明部いすで(昆虫影ですがながなが、とはないでは、このでは、これのでは、	低減	а	なし	なし

影	響要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施 主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
		オオタカ、マタカ	工事に伴 う生息環 境への影 響	工事に伴 う生息環 境への影 響の低減	コンディ ショニン グの実施	段工き徐に等せど猛注影で階規く々伴にるに禽目響きにを、工騒れとり等へ低。施大事音さな、のの減	低減	a	なし	なし
工事の実施	エーび用の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田	保全対象種全般	工事に伴 う生息環 境への影 響	工事に伴 う生息環 境への影 響の低減	工事従事 者への講 習・指導	不内入捨なて者る人乱響き意のやのに事指と的よ低な立ゴ禁つ従導でなる減休ちミ止い事す、攪影で	低減	а	なし	なし
		保全対象種全般	地表改変による生息地の消失・縮小	地表改変 によめの 息地の の が 選、 低減	工事施工 ヤの緑保に 林緑保に 護よ 境の確保	工にし工の縁化と重生変動響きのし工一化保図よな環にへ低。実使事ドや護るり種境伴の減施用施等林緑こ、ののう影で	低減	а	なし	なし

影	響要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
鉄道施設の存在	鉄道施 設の存 在	カワネズゲンジャ	生息地への影響道といるというというというというというというというというというというというというというと	生の減形変生のがれに動分息影、状に息連遮るよ経断地響河のよ環続断こる路へ低川改り境性さと移の	付替え河 川におけ る多自然 川づくり	付でづ施に該息種境るきえ自りるり川る生代とのがは、に注息償が川のをこる。	代償	а	あり	なし

a:東海旅客鉄道株式会社

9-5 人と自然との触れ合い

9-5-1 景観

鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設、保守基地)の存在による景観の影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-5-1 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-5-1 人と自然との触れ合い(景観)に関する環境保全措置の検討結果

見る	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
永	晉安囚	影 晉	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
鉄道施設	鉄設表は式上道の大型が大型が、大型が大型が大型が大型が大型が大型が大型が大型が大型が大型が大型が大型が大型が大	景観	景観への影響	工事に伴う 改変区域を できる限り 小さくする	改変区域をでき る限り小さくす ることで、景観 等への影響を回 避又は低減でき る。	回避又 は低減	a	なし	なし
設の供用	工駅電設守地 で で で で の を を を を の を を の を の の の の の の	への影響	の回避又は低減	構造物の形状の配慮	構造物の形状の 配慮に自然、農村、 市街景観との 計を図り、景観 等への影響を低 減できる。	低減	a	なし	なし

※ 実施主体

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-5-2 人と自然との触れ合いの活動の場

鉄道施設(トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、変電施設、保守基地)の存在による人と自然との触れ合いの活動の場の影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-5-2 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-5-2 人と自然との触れ合い(人と自然との触れ合いの活動の場) に関する環境保全措置の検討結果

目4	继击口	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
彭	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
鉄道施設	鉄設表は式架橋道(式掘、橋梁	人の自然との触れ合	人然触いのとれの	鉄道保の設 (保の) (保の) (保の) (保の) (保の) (保の) (地) (地)	鉄基あタ 慮 工で、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが	低減	a	なし	なし
設の供用	の 供用 地 駅 電 設 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	いの活動の場への	動の場合	位置、構造、 色合い等へ の配慮	色合い等につい て配慮すること は、改変や利用 性への影響を回 避又は低減する ことができる。	回避又は低減	a	なし	なし
	を存在	影響		鉄道施設の 形状による ()	鉄道施設の形状 等の工夫によった 近傍の配慮は の配慮性へのること を低減する。 ができる。	低減	а	なし	なし

※ 実施主体

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-6 環境への負荷

9-6-1 廃棄物等

工事の実施時における切土工等又は既存の工作物の除去又はトンネルの工事並びに鉄道施設(駅)の供用による廃棄物等の影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-6-1 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-6-1 環境への負荷 (廃棄物等) に関する環境保全措置の検討結果

見る	郷田口	日く幼爪	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
京	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
		建設		建設発生土の再利用	事業内及び事業 外での再利用に 努めることで、 建設工事に伴う 副産物の発生量 を低減できる。	低減	a	なし	なし
工事の実施	切土工 等又は 既存の 工作物 の除去	建設工事による副産物の	発生量の低減	建設汚泥の脱水処理	脱水処理により 減量化を図るこ とで、建設工事 に伴う副産物の 発生量を低減で きる。	低減	а	なし	なし
		の発生		副産物の分 別、再資源 化	場内で細かく分 別し再資源化に 努めることで、 建設工事に伴う 副産物の発生量 を低減できる。	低減	a	なし	なし
		建設		建設発生土の再利用	事業内及び事業 外での再利用に 努めることで、 建設工事に伴う 副産物の発生量 を低減できる。	低減	а	なし	なし
工事の実施	トンネ ルのエ 事	建設工事による副産物の	発生量の低減	建設汚泥の 脱水処理	脱水処理により 減量化を図るこ とで、建設工事 に伴う副産物の 発生量を低減で きる。	低減	a	なし	なし
		発 生		副産物の分 別、再資源 化	場内で細かく分 別し再資源化に 努めることで、 建設工事に伴う 副産物の発生量 を低減できる。	低減	a	なし	なし

星公	郷田田	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
形	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
鉄		鉄道施設(駅)の		廃棄物の分 別、再資源 化	分設では、別では、別では、別では、別では、別のでは、ののでは、ののでは、ののでは、の	低減	a	なし	なし
鉄道施設の供用	鉄道施設(駅)の供用	の供用による廃棄物の発生	発生量の低減	廃棄物の処 理、処分の 円滑化	廃のよ理化で別び底き、駅廃を物切廃処図廃再正る鉄の乗低管配物のる物源理と道用の減管配物のる物源理と道用の減での乗びの乗びをが施に発ででがした。	低減	а	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

9-6-2 温室効果ガス

工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行)及び鉄道施設(駅)の供用による温室効果ガスに係る環境影響を、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減するために、表 9-6-2 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-6-2 環境への負荷(温室効果ガス)に関する環境保全措置の検討結果

影	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
NO.		700 🗎	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				高効率の建 設機械の選 定	高効率の建設機械の採用により、温室効果ガスの排出量を低減できる。	低減	a	なし	なし
				高負荷運転 の抑制	建設機械の高負荷運転を抑制することにより、温室効果ガスの排出量を低減できる。	低減	a	なし	なし
工事の実施	建械働材機運用機稼資びのにな	温室効果ガスの発	発生量の低減	工事規模に 合わせた建 設機械の設 定	適切な機械の設 定により必要以 上の建設機械の 配置や稼働を避 けることで、温 室効果ガスの排 出量を低減でき る。	低減	a	なし	なし
	用いる車両の運行	発 生		建設機械の 点検・整備 による性能 維持	適切な点検・整備により建設機械の性能を維持することで、温室効果ガスの排出量を低減できる。	低減	a	なし	なし
				資材及び機 械の運搬に 用いる車車 の点検・整 備による性 能維持	適切な点検・整備により資材及び機械の運搬に用いる車両の性能を維持することで、温室効果がある。	低減	a	なし	なし

日公	AR and Iro	日之須収	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
彰	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
工事の実施	建械働材機運用車運設の、及械搬い両行機稼資びのにるの	温室効果ガスの発生	発生量の低減	低燃選の 載化 画に 距化 のよの よの 選母 重種 積率計化 搬適化	低燃費車種の対象を重種の対象を定化、計画運化室ののでででである。これででは、のはでは、のはできる。これでは、のよりでは、いきないでは、のよりでは、いきないではないでは、いきないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	低減	a	なし	なし
				省エネルギ ー型製品の 導入 温室効果ガ	省エネルギー型 製品の導入によ り、温室効果ガ スの排出量を低 減できる。 温室効果ガスの	低減	a	なし	なし
鉄道施設の供用	鉄道施 設(駅) の供用	温室効果ガスの発生	発生量の低減	スの排出抑制に留意の整備や管理	排出抑制に留意 した施理を行う温 をにより、の排 をによがるので 量を低減 を る。	低減	a	なし	なし
				設備機器の 点検・整備 による性能 維持	適切な点検・整備により設備機器の性能を維持することで、温室効果ガスの排出量を低減できる。	低減	a	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

第2節 具体的な位置・規模等の計画を明らかにすることが困難な付帯施設に 関する環境保全措置

本準備書において具体的な位置・規模等の計画を明らかにすることが困難かつ環境影響の大きい付帯施設(発生土置き場)に関する環境保全措置は、以下に示すとおりである。

表 9-7-1 環境への負荷(発生土置き場)に関する環境保全措置の検討結果 【大気質】

			検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
影	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
			<i>V</i> 27711	排出ガス対	排出ガス対策型			1 1/10/2/12	7N - 70 E
				策型建設機	建設機械の採用				
				械の採用	により、二酸化				
					窒素及び浮遊粒	低減	a	なし	なし
					子状物質の発生				
					を低減できる。				
				工事規模に	適切な機械の設				
				合わせた建	定により必要以				
				設機械の設	上の建設機械の				
				定	配置及び稼働を				
		_			避けることで、	低減	a	なし	なし
		酸			二酸化窒素及び				
		化 窒			浮遊粒子状物質				
		素	発生量		の発生を低減で				
工	建設機	酸化窒素及び浮遊粒子	の低減		きる。				
工事	展の機械の稼	浮		建設機械の	工事の実施にあ				
の実	働	遊 粒	発生原	使用時にお	たって、高負荷				
実施	[3]	子	単位の	ける配慮	運転の防止、ア				
		, 状 物 質	低減		イドリングスト				
		質			ップの推進等に	低減	a	なし	なし
		の 発			より、二酸化窒				
		生			素及び浮遊粒子				
					状物質の発生を				
					低減できる。				
				建設機械の	適切な点検及び				
				点検及び整	整備により、建				
				備による性	設機械の性能を				
				能維持	維持すること	低減	a	なし	なし
					で、二酸化窒素	PEN IV: N		. 5)
					及び浮遊粒子状				
					物質の発生を低				
					減できる。				

П.	∀ B7 	D / VEP	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
影	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
工事の実施	建設機 械の稼働	二酸化窒素及び浮遊粒子状物	発生量 の低減 発生原 単位 低減	工事に伴う 改変区域を できる限り 小さくする	改変区域をできる ること機械限に、 建設小で、びなり を最小で、びなり を最小で、びなり を最大を をを をを を を を を を を を を を を を を を を	低減	a	なし	なし
工事の	資材及 び機械 の運搬	二酸化窒素及び浮遊粒	発生量の低減	資材及び機 械のでいる 関本のでである。 を構作を を構作を を は に は に は に は に は に は に は に は に は に	適切な点検及び整備に機びでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	低減	a	なし	なし
の実施	に用いる車両の運行	粒子状物質の発生	発生原単位の低減	資材及び機 械の運搬に 用いる車計 の配慮	資材及び機械の 運搬に用いる車 両の運化及びででである。 ですることでである。 でする。 できる。	低減	a	なし	なし
工事の実施	建設機械の稼働	粉じん等の	発生量 の低減 発生原	工事規模に 合わせた建 設機械の設 定	適切な機械の設定により必要以上の建設機械の配置及び稼働を避けることで、粉じん等の発生を低減できる。	低減	a	なし	なし
施	判	発 生	単位の低減	工事現場の 清掃及び散 水	工事現場の清掃 及び散水を行う ことで、粉じん 等の発生を低減 できる。	低減	a	なし	なし

B 2	细叶口	日之组取	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
京	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				仮囲いの設置	仮囲いを設置することで、粉じん等の拡散を低減できる。	低減	a	なし	なし
工事の実施	建設機械の稼働	粉じん等の発生	発生量 の低減 発生位 低減	工事に伴う 改変区域を できる限り 小さくする	改変区域をでき る限り小より、 をとにより、 建設機械の稼働 を最小限に抑え ることで、粉じ ん等の発生を低 減できる。	低減	а	なし	なし
				工事の平準 化	工事の平準化に より片寄った施 工を避けること で、粉じん等の 局地的な発生を 低減できる。	低減	a	なし	なし
				荷台への防塵シート敷設及び散水	荷台に防塵シートを敷設するとともに散水することで、粉じん等の発生を低減できる。	低減	a	なし	なし
工事の実施	資びのにるの 材機搬い両 の	粉じん等の発生	発生量 の低減 発生位 低減	資材及び機 械の運車車の の出間の のの のの が で が で が で が で が で の の の の の の	資材及び機械の 運搬に用りの清別の出入の 周辺道路水、タイランで 大ので 大ので で で きる。	低減	a	なし	なし
	※ 宝施主			工事の平準化	工事の平準化に より資材及び機 械の運搬に用い る車両が集中し ないことで、粉 じん等の局地的 な発生を低減で きる。	低減	а	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

表 9-7-2 環境への負荷(発生土置き場)に関する環境保全措置の検討結果 【騒音】

【 緞首】										
垦	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要	
彩	晋安囚	影 管	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響	
				低騒音型建 設機械の採 用	低騒音型建設機 械の採用により、工事に伴う 騒音の発生を低	低減	a	なし	なし	
					仮囲い・防 音シート等 の設置によ る遮音対策	減できる。 仮囲い・防音シ ート等を設置す ることで、遮音 による騒音の低 減効果が見込ま れる。	低減	a	なし	なし
			発生量	工事規模に 合わせた建 設機械の設定	適切な機械の設定により必要以上の建設機械の配置及び稼働を避けることで、 騒音の発生を低減できる。	低減	a	なし	なし	
工事の実施	建設機械の稼働	騒音の発生	騒音の発生 生 単位の低減	建設機械の使用時における配慮	工事の実施にあ たって、高負荷 運転の防止、ア イドリングスト ップの推進等に より、騒音の発 生を低減 を る。	低減	а	なし	なし	
				建設機械の 点検及び整 備による性 能維持	適切な点検及び 整備により建設 機械の性能を維 持することで、 騒音の発生を低 減できる。	低減	а	なし	なし	
				工事に伴う 改変区域を できる限り 小さくする	改変区域をできる限り小さくり、 をことにより、 建設機械の稼働 を最小限に抑えることで、 の発生を低減で きる。	低減	a	なし	なし	

影	響要因	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措置 の効果	措置の 区分	実施 主体	効果の 不確実性	他の環境要素への影響
工事の実施	建設機械の稼働	騒音の発生	発生量 の低減 発生原 単位の 低減	工事の平準化	工事の平準化に より運搬に用いる 事ででは が集かで での での は が を で の で の を の を の を の の の し の し の し の し の し の し	低減	a	なし	なし
				資材及び機 械の運搬に 用いる車両 の点検及び 整備による 性能維持	適切な点検及び 整備には機械の を構成が 機に用いる の性能を維持 の性能をで、 低減 の発生を低減 きる。	低減	а	なし	なし
工事の実施	資材機 が機械 の運用 に 車 で で で	騒音の発生	発生量 の低減 発生の 単位 低減	資材及び機 械の運搬に 用いる車両 の運行計画 の配慮	資材及び開いている。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	低減	а	なし	なし
				工事の平準化	工事の単化に より運搬に用いる 車両がまで、 ないことでの おいことが かでない を して を して と で が を を の に の に り に り に り に り に り に り に り に り に	低減	a	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

表 9-7-3 環境への負荷(発生土置き場)に関する環境保全措置の検討結果 【振動】

見会	郷田田	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要	
形	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響	
				低 振 動 型	低振動型建設機					
				建設機械の	械の採用によ					
				採用	り、工事に伴う	低減	а	なし	なし	
					振動の発生を低					
					減できる。					
				工事規模に	適切な機械の設					
				合わせた建	定により必要以					
				設機械の設	上の建設機械の					
				定	配置及び稼働を	低減	а	なし	なし	
					避けることで、					
					振動の発生を低					
					減できる。					
				建設機械	工事の実施にあ					
				の使用時に	たって、高負荷					
				おける配慮	運転の防止、ア					
					イドリングスト	低減	а	なし	なし	
		振動の				ップの推進等に			6, 0	
			発生量		より、振動の発					
工事	建設機		の低減		生を低減でき					
か	械の稼				る。					
の実施	働	発 生	発生原	建設機械	適切な点検及び					
加山		工.	単位の	の点検及び	整備により建設					
			低減	整備による	機械の性能を維	低減	а	なし	なし	
				性能維持	持することで、					
					振動の発生を低					
				マ ま >> AV	減できる。					
				工事に伴	改変区域をでき					
				をできる限	る限り小さくすることにより、					
				り小さくす	建設機械の稼働					
				りかさくり	を最小限に抑え	低減	а	なし	なし	
				ري ا	ることで、振動					
					の発生を低減で					
					きる。					
				工事の平準	工事の平準化に					
				エザの干井	より片寄った施					
				10	工を避けること					
					で、振動の局地	低減	a	なし	なし	
					的な発生を低減					
					できる。					
<u> </u>		l	I	1	, , , ,	1			<u> </u>	

影	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
		<i>^,</i> =	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				資材及び機	適切な点検及び				
				械の運搬に	整備により、資				
				用いる車両	材及び機械の運				
				の点検及び	搬に用いる車両	低減		なし	なし
				整備による	の性能を維持す	化机火	а	なし	なし
				性能維持	ることで、振動				
					の発生を低減で				
					きる。				
				資材及び機	資材及び機械の				
	資材及		発生量	械の運搬に	運搬に用いる車				
工	び機械	振	の低減	用いる車両	両の運行ルート				
工事の	の運搬	動		の運行計画	の分散化及び法	/rr >-4			
実	に用い	の 発	発生原	の配慮	定速度の遵守等	低減	а	なし	なし
施	る車両	生	単位の		を行うことによ				
	の運行		低減		り、振動の発生				
					を低減できる。				
				工事の平準	工事の平準化に				
				化	より資材及び機				
					械の運搬に用い				
					る車両が集中し				
					ないことで、振	低減	а	なし	なし
					動の局地的な発				
					生を低減でき				
					る。				

a: 東海旅客鉄道株式会社

表 9-7-4 環境への負荷(発生土置き場)に関する環境保全措置の検討結果 【水質】

里公	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
彩·	音安囚	影音	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				工事排水の適切な処理	工事により発生 する濁水に選手の対策に 理等の対策にの対策に がある。 はたうとは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	低減	а	なし	なし
工事の宝	工事施 エヤー ド及び 工事用	水の濁	水の濁りの低	工事に伴う 改変区域を できる限り 小さくする	工事に伴う改変 区域をできる限 り小さくするこ とで、水の濁り の発生を低減で きる。	低減	a	なし	なし
実施	道路の設置	ŋ	減	工事排水の監視	工事排水の水の 濁りを監視し、 処理状況を定期 的に確認すること を徹底すること ができる。	低減	a	なし	なし
				処理装置の 点検・整備 による性能 維持	処理装置を設置 する場合は、適 切な点検・整備 による性能維持 により、工事排 水の適正処理を 徹底することが できる。	低減	а	なし	なし

※ 実施主体

a: 東海旅客鉄道株式会社

表 9-7-5 環境への負荷 (発生土置き場) に関する環境保全措置の検討結果 【重要な地形及び地質】

堅/	響要因	影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
おと	音女囚	於 晉	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
工事	工事施 エヤー ド及び	重要な地形及	重地でなる質	地形の改変 をでいるでは かいまでは をでいるでは かれまでは では では では でいるでは でいるでする では でいるでする では でいるでする では でいるでする では でいるでする では でいるでする では でいるでする では でいるでする。 でいるでは でいるできる。 でいるでは でいるできる。 でいるでは でいるできる。 でいるでは でいるできる。 でいるでは でいるできる。 でいるでは でいるできる。 でいるでは でいるできる。 でいるでは でいるできる。 でいるでは でいるで でいるで	工事施工ヤード 及の設置に変われる 地形の設めいとする する計で、びも はでいる は形とでする は形とするない は形とでいる は形とでいる はの影響を回避又	回避 又は 低減	а	なし	なし
の実施	工事用道路の設置	び地質への影響	への影 回 避 双 低減	地形の改変 をできる限 り小さくし た工法又は 構造の採用	は低減できる。地形の改変をできるという。というではないのではないのではないできるというでは、ないではないでは、ないの影響をでいる。	回避 又は 低減	а	なし	なし

※ 実施主体

a: 東海旅客鉄道株式会社

表 9-7-6 環境への負荷(発生土置き場)に関する環境保全措置の検討結果 【文化財】

見么	郷田田	見く組収	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
彰	響要因	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
				適切な構造及び工法の採用	適切な構造、工 法等を採用する ことで埋蔵文化 財への影響を回 避又は低減でき る。	回避 又は 低減	a	なし	なし
工事の実施	鉄設ネ表は式式変設基道(ル式掘、、電保)施ン地	文化財への影響	文へ響避低が射影回は	試掘・確認 調査及の実 掘調査の実	事財等し係のない試をでたをで又る前のを、箇うる、掘実、め実、はに輝明ら体の必出に認た保掘るを影低性が等調要をよ調う存調こ回で、出に関整と行り査えの査と避き	回避ス低減	а	なし	なし
	存在			遺跡の発見に関する届出	法調中がき教届後いと対で影低に中新見、委を取は議す文をでがにれの会、い係行る財避るづびにれの会、い係行る財避るう工遺た旨等そに箇いこへ又。、事跡とをへのつ所、とのは、事跡とをへのつ所、とのは	回避又は低減	a	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

表 9-7-7 環境への負荷(発生土置き場)に関する環境保全措置の検討結果 【動物】

		I	I	I		1				
影	響要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保全措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施 主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
		保全対象種	地表改変による生息地の消失・縮小	地表な変生に地表のののは、生まれている。地のののは、生まれている。	重要な種の 生息地の全 体又は一部 を回避	重要な種の 生息地への 影響を回避 又は低減で きる。	回避 又は 低減	a	なし	なし
	建設機	保全対象種	地表改変 による生 息地の消 失・縮小	地表改変 による生 息地の回 失等又は低 減	工事に伴う 改変区域を できる限り 小さくする	重要な種の 生息地への 影響を回避 又は低減で きる。	回避 又は 低減	a	なし	なし
工事の実施	械働資びのにるの並工工ドの、材機運用車運び事ヤ及稼扱い両行に施一び	保全対象種	濁水の流 入による 水質の低 下	濁水の流 入による 影響の低 減	汚濁処理施 設処理装置 及び仮設沈 砂池の設置	汚設及砂に水抑こ類環響き濁処び池よのえと等境をる処理仮のり発らでのへ低。理装設設汚生れ、生の減産置沈置濁がる魚息影で	低減	а	なし	なし
	工事用 道路の 設置	昆虫類の保全対象種	工事等に 伴う生息 環境への 影響	工事等に 伴う生息 環境への 影響の低 減	照明の漏れ出しの抑制	設明部いすでのへ回減置はによる、昆の避でる力け配こ光類響はると性等を低。	回避又は低減	а	なし	なし
		保全対象種	工事に伴 う生息環 境への影 響	工事に伴 う生息環 境への影 響の低減	資材運搬等 の適正化	動物全般への影響を回避又は低減できる。	低減	а	なし	なし

影	響要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保全措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施 主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
工事の	建械働資びのにる機稼及械搬い両	保全対象種	工事に伴う生息環境への影響	工事に伴う生息環境への影響の低減	防 音 シ 氏 番 音・低振動型の採用	低振設用騒のえと等境をる・ののり振がる鳥息影でのへ低。は建採、動抑こ類環響き	低減	а	なし	なし
の実施	の並工工ド工道設行に施一び用の	保全対象種	工事に伴う生息環境への影響	工事に伴う生息環境への影響の低減	工事従事者への講習・指導	不内入ゴ禁い事すでなる減用へりミ止て者る、攪影でお立及てに事指こ為にをる林ちびのつ従導と的よ低。	低減	а	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

表 9-7-8 環境への負荷(発生土置き場)に関する環境保全措置の検討結果 【植物】

影響	野医因	検討種	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
		保全対象種	地変る地失・縮小	地変る地失回は数に生の等避減	重要な種 の生育環 境の全体 又は一部 を回避	重要な種の 全体を回避で ること回避で 影響低減で きる。	回避 又は 低減	а	なし	なし
		保全対象種	地変る地失・縮小	地変る地失回は低水は息消の又	工事に伴 う改をでき るだけ小 さくする	生育変する電影でで、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	回避 又は 低減	а	なし	なし
工事の実施	工事施 エヤ び 工 事	保全対象種	地変る地失改よ息消小	地変る地失回は表に生の等避低	重要な種の移植	重 移 す で な 番 る 種 る れ こ の る ば る は に 代 と に に を き る 。 に に に に に に に に に に に に に	代償	а	あり	なし
		保全対象種	濁流よ質下のに水低	濁流よ響減のに影低	仮設沈砂 池及理 親処理 選の設置	汚設及殿に水抑ま水る水等境をる郷処び池よのえた温こ辺のへ低。理装設設汚生れ水下で植育影でを置沈置濁が、のげ、物環響き	低減	а	なし	なし

影響	要因	検討種	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施 主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
工事の実施	工事施 エヤレび 工事の 道路置	保全対象種	工伴息へ響	工伴息へ響減に生境影低	工事従事者への講習・指導	エの立をこれるでは、等の立をといるのでは、の立をといるのは、では重のは、のでは重のがでは、のではでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	低減	а	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

表 9-7-9 環境への負荷(発生土置き場)に関する環境保全措置の検討結果 【生態系】

	【工您术】									
影響要因		検討種	影響	検討の 視点	環境保全 措置	環境保全措 置の効果	措置 の 区分	実施 主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
工事の実施		保全対象種	地変る息地失・縮小	地表はよりののは、	重要な種 の生息地 の全体又 は一部を 回避	重要な種の 生息地への 影響を回避 又は低減で きる。	回避又は低減	a	なし	なし
	7-‡+ -≅-∏- +6/6	保全対象種	地変る地のない。	地表な変による生育 地の回済 等の回避 又は低減	工事に伴 う改変区 域をでき る限り小 さくする	重要な種の 生息地への 影響を回避 又は低減で きる。	回避 又は 低減	а	なし	なし
	建械働資びのにるの並設の、材機運用車運び機な	保全対象種	地変る地失・縮小	地表な生育というというでは、おいまでは、おいまでは、おいまでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	重要な種の移植	重要 移植る で、 を を を を を に と に と に き る。 き る。 き る。 き る。 き る。 き る。 き る。 き	代償	а	あり	なし
		保全対象種	濁流よ質下のに水低	濁水の流 入による 影響の低 減	汚濁処理 装置及び 仮設沈砂 池の設置	汚濁及砂に水抑こ類環響を選しいででのなど等境をあると等境をるのが、生の減	低減	а	なし	なし
		昆虫類 の保全 対象種	工年 生 生 境 響	工事等に伴う生息環境への影響の低減	照明の漏れ出しの抑制	設置を 関は極力は がよる で、 はのの で、 を の、 のの のの のの のの のの のの のの のの のの	回避又は低減	а	なし	なし

影響要因		検討種	影響	検討の 視点 工事に伴	環境保全 措置 資材運搬	環境保全措置の効果	措置 の 区分	実施主体	効果の 不確実 性	他の環境 要素への 影響
	建械働資びのにるの並工工ド工道設設の、材機運用車運び事ヤ及事路置機稼 及械搬い両行に施一び用の	保全対象種	工伴息へ響の	工事に任 う生息環 境への影 響の低減	質材連振 等の適正 化	動物全般への影響を回避又は低減できる。	低減	a	なし	なし
工事の実施		保全対象種	工伴息へ響	工事に伴う生息環境への影響の低減	防ト音動設機の採用	低振設用騒のえと等境をあいののり振がる鳥息影でのへ低を採、動抑こ類環響きる。	低減	а	なし	なし
		保全対象種	工伴息へ響に生境影	工事に伴う生息環境への影響の低減	工事従事者への講習・指導	不内入ゴ禁い事すでなる減用へりミ止て者る、攪影でな立及てに事指」為にをる林ちびのつ従導と的よ低。	低減	а	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社

表 9-7-10 環境への負荷(発生土置き場)に関する環境保全措置の検討結果 【景観】

影響要因		影響	検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
			視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
鉄道施設	鉄道施 設(地 表式掘割 は ボ、 は 式、 温		景観へ	工事に伴う 改変区域を できる限り 小さくする	改変区域をできる限り小さくすることで、景観等への影響を回避又は低減できる。	回避又は低減	a	なし	なし
設の供用	上駅 電設 守地 存 で 保 の 存	への影響	の回避又は低減	構造物の形状の配慮	構造物の形状の 配慮により、周 辺の自然、農村、 市街景観との調 和を図り、景観 等への影響を低 減できる。	低減	a	なし	なし

※ 実施主体

a: 東海旅客鉄道株式会社

表 9-7-11 環境への負荷(発生土置き場)に関する環境保全措置の検討結果 【人と自然との触れ合いの活動の場】

見么	影響要因		検討の	環境保全	環境保全措置	措置の	実施	効果の	他の環境要
京	晉安囚	影響	視点	措置	の効果	区分	主体	不確実性	素への影響
鉄道施設の供用	鉄設表は式架橋地駅電設守地存道(式掘、橋梁上、施、基)在施地又割高、、変ー保ーの	人の自然との触れ合いの活動の場への影	人の自然との触れ合いの活動の場への 人 然 触 い 動 へ 響 避 の と れ の の の の 低 自 の 合 活 場 影 回 減	鉄道施設 (保守基地)の設置 に伴う迂回 水路への配慮 鉄道施設	鉄道施設(保守する) 基地)回水生息は をは、水は、水は、水は、水は、水は、水は、水は、水は、水は、水は、水は、水は、水は	低減	а	なし	なし
				(保守基地)の設置位置、構造、 色合い等への配慮	基地)の設置式、 色合いでは、 色の配慮するで は、の影響を は、の影響を は、の影響を とができる。	回避又は低減	а	なし	なし
		影響		鉄道施設の 形状等の工 夫による近 傍の風景へ の調和の配 慮	鉄道施設の形状 等の工夫による 近傍の風景への 調和の配慮は、 快適性への影響 を低減すること ができる。	低減	a	なし	なし

a: 東海旅客鉄道株式会社